



## 【 利用者の方からの質問 】

野菜や花の病気や防虫の予防のための用意しておくべき、薬剤を教えてください。できるだけ種類を少なくして備えておきたいので具体的な名前や使用方法も併せてお願いします。



## 【 豊嶋さんからの回答 】

野菜や花の病気と虫の対策で、できるだけ種類を少なく、ですね。いちばん種類が少なく済むのはホームセンターや園芸店で販売している希釈済みのスプレーです。各社ともに殺虫剤と殺菌剤を混合して希釈したスプレーをラインナップしています。これならば、虫や病気の発生している葉などに向けてスプレーするだけで使用できます。

ベニカXネクストスプレー <https://www.sc-engei.co.jp/guide/detail/3509.html>  
カダンプラスDX <https://fumakilla.jp/gardening/528/>  
アースガーデン野菜うまし <https://www.earth.jp/products/earth-garden-yasaiumashi-1000/index.html>

以下で紹介する農薬も同様ですが、食用にする作物の場合は、虫や病気にかかっている作物がその薬剤の「適用作物」でなければ使用することができません。それぞれの薬剤の適用表をごらんになって、育てている野菜がたくさん載っているものを選ぶと便利です。花の場合は「花き類・観葉植物」が表に載っていればどの花にも使用することができます。

希釈済みスプレーはプランター栽培や小面積の畑では便利ですが、量が少なくその割にお値段もしますので、ちょっと面積が大きくなると不向きとなります。そういう場合は原液を希釈したり粉や顆粒を水に溶かして使う殺虫剤や殺菌剤を使用します。また、こちらは最初から混合してある薬剤がほとんどありませんので、用途に合わせて用意することになります。

なるべく種類を少なくとのことですので、適用作物や適用病害虫が多く、連続で使用しても虫や病原菌が耐性をつけにくい薬剤を選びたいところです。

殺菌剤ならば、ダコニール1000 <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/16823>  
ジマンダイセン水和剤 <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/22345>がその条件に当てはまります。両方とも、作物体内に侵入した病原菌を退治する効果よりも侵入を防止する効果に優れています。

また、サンヨール <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/9625>はトマト、ナスなどの多くの果菜類と花に使える殺菌剤ですが、アブラムシやコナジラミなどの小さな虫とハダニにも若干効果があります。

アブラムシやアザミウマ、コナジラミ退治に便利なのがコルト顆粒水和剤 <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/22797>です。比較的新しい薬剤ですが、適用作物がたくさんあります。

キャベツなどの葉菜類につくアオムシやヨトウムシ等のイモムシは手で除去されるかもしれませんが、薬剤を使われる場合に代表的なものを紹介します。

アフーム乳剤 <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/19842>は適用作物が多く、イモムシ類を中心にアブラムシ以外の多くの虫に効きます。

プレバトンフロアブル5 <https://pesticide.maff.go.jp/agricultural-chemicals/details/22464>も適用作物が多い薬剤ですが、ほぼイモムシにしか効きませんが、100倍に希釈して定植前の苗にかけておくと苗が大きくなっても2~3週間イモムシの食害から守ってくれるという使い方もできます。

これらの希釈して使う薬剤は農協のふれあいセンターか、農薬をたくさん扱っている大きなホームセンターで入手できます。

冒頭で紹介しました希釈済み混合スプレーのように薬剤を混合して使う際は以下のような手順で行います。

1. 使用する量の水をバケツに用意する。
2. 展着剤(ダイン、アグラール、ハイテンパワーなど)を所定の量加えて軽く混ぜる。
3. 成分がすでに溶けているもの→溶けやすいもの→溶けにくいものの順に所定の希釈率になるように加える。具体的には、液剤→乳剤→フロアブル剤→水和剤の順です。加えるたびによく混ぜてください。
4. 散布機に移して残液のないようにむら無く散布する。使い捨ての手袋や農業販売店に売ってある農薬散布用マスクを着用しましょう。
5. 散布機やバケツなど使用した道具をよく洗う。

もっと詳しい使用方法や農薬に関する知識については以下の書籍も参考になります。  
農文協編『今さら聞けない農薬の話きほんのき』(6158 J)  
日本植物防疫協会編『農薬概説2021』(6158ニ)

